

# 3 高齢社会白書

## 高齢・単身世帯で就業や社会活動などの社会生活支援が必要——内閣府

内閣府は6月19日、「平成30年版高齢社会白書」を発表した。白書は高齢社会対策基本法の規定に基づき毎年国会に提出しているもの。今回で23冊目となる。内閣府では、「高齢者の健康に関する調査」も実施しており、白書では、これらの調査結果を基に、健康状態と日常の活動や就労の状況も分析している。



我が国の総人口は、2017年10月1日現在、1億2,671万人。65歳以上人口は、3,515万人であり、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は27.7%となっている。

将来推計では、65歳以上人口は、「団塊の世代」（1947～1949年に生まれた人）が65歳以上となった2015年に3,387万人となり、その後も増加傾向は続き、2042年に3,935万人でピークを迎え、その後は減少に転じるものの、高齢化率は上昇傾向にある。

65歳以上の者のいる世帯について見ると、2016年現在、世帯数は2,416万5,000世帯と、全世帯（4,994万5,000世帯）の48.4%を占めている。そのうち、夫婦のみの世帯が一番多く約3割となっており、単身世帯と合わせると半数を超える状況にある。

社会保障給付費（年金・医療・福祉その他を合わせた額）全体については、2015年度で114兆8,596億円となり過去最高の水準となった。社会保障給付費のうち、高齢者関係給付費については、2015年度は77兆6,386億円となり、社会保障給付費に占める割合は67.6%を占める。

また、2015年度の年齢階級別1人

当たり医療費（医療保険制度分）は、60～64歳で37.1万円であるのに対し、75～79歳で79.3万円、80～84歳で94.0万円と上昇している。

### 60歳以上の暮らし、6割が「心配ない」

60歳以上の者の経済的な暮らし向きについて見ると、「心配ない」（「家計にゆとりがあり、全く心配なく暮らしている」と「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」の計）と感じている人の割合は全体で64.6%となっている。年齢階級別に見ると、年齢階層が高いほど「心配ない」と回答した割合は高く、「80歳以上」では71.5%を占める。

白書は、60歳以上の世帯の貯蓄現在高についても分析している。それによれば、世帯主が60～69歳の世帯及び70歳以上の世帯では、他の年齢階級に比べて大きな純貯蓄を有している。世帯主が60歳以上の世帯の貯蓄額の中央値は1,567万円となっており、全世帯の貯蓄額の中央値の1,064万円の約1.5倍となっている。

60歳以上の者の貯蓄の目的について見ると、「万一の備えのため」が47.5%で最も多い。

### 70歳前半層の就業率は27.2%

2017年の労働力人口は、6,720万人。労働力人口総数に占める65歳以上の者の割合は12.2%と上昇し続けている。

年齢階級別の就業率は、2017年で60～64歳が66.2%、65～69歳が44.3%、70～74歳が27.2%、75歳以上が9.0%となっている。年齢階級別に就業率の

推移を見てみると、60～64歳、65～69歳、70～74歳では、10年前の2007年の就業率と比較して、2017年の就業率はそれぞれ10.7ポイント、8.5ポイント、5.5ポイントの伸びを示した。

### 平均寿命と健康寿命が男女ともに延伸

平均寿命は、2016年時点で男性80.98歳、女性87.14歳（2010年では男性79.55歳、女性86.30歳）。一方、日常生活に制限のない期間（健康寿命）は、2016年時点で男性が72.14年、女性が74.79年（2010年では男性70.42歳、女性73.63歳）となっている。

2016年時点の健康寿命は、男女それぞれ2010年と比べて延びている（2010年→2016年：男性1.72年、女性1.17年）。さらに、同期間における健康寿命の伸びは、平均寿命の伸び（2010年→2016年：男性1.43年、女性0.84年）を上回っている。

### 高齢期のインターネット利用が進展

過去1年間にインターネットを利用したことがあるかについて、利用者の年齢階級別に6年前と比較すると、70～79歳が14.4ポイント増と最も大きく、次いで60～69歳が11.3ポイント増などとなっており、60代、70代でのインターネットの利用は増加傾向にある（図表1）。

また、インターネットを利用したことがあると回答した65歳以上の者の使用頻度について見ると、半数近くの43.2%が「毎日少なくとも1回」は利用していると回答している。

インターネットで医療・健康についてどのような情報を得ているかについ

ては、「病気について（病名や症状、処置方法）」が22.6%、「病院などの医療機関」が14.0%、「薬の効果や副作用」が13.6%となっている。インターネットで得た情報のうち、どの程度の情報を行動の根拠にしているのかについて見ると、「他の情報とあわせて判断し有用な情報であれば行動の根拠としている」が

49.2%と最も多く、ついで、「いずれの情報も参考程度で行動の根拠にはしない」が33.0%、「ほぼ信用して行動の根拠にしている」が14.1%となっている。

### 高齢期の社会生活の支援を提言

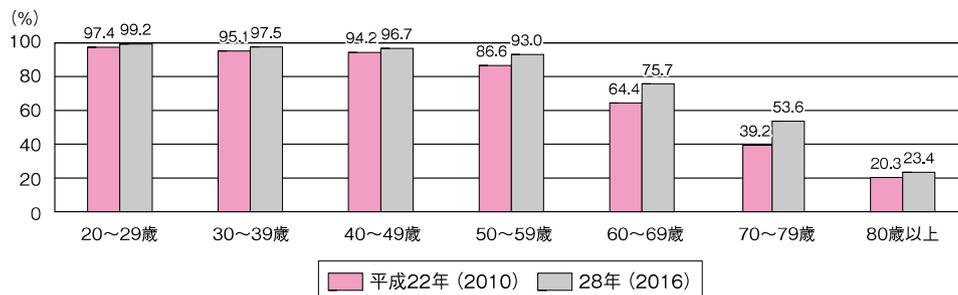
内閣府では、高齢者の健康と日常生活や就業との関わりを調査するため、「高齢者の健康に関する調査」を実施した（調査対象：全国の55歳以上の男女）。

調査結果によれば、現在の主観的な健康状態は、「良い・計」（「良い」「まあ良い」の合計）は52.3%となっており、「普通」が29.6%である一方で、「良くない・計」（「良くない」「あまり良くない」の合計）は18.1%だった。

主観的な健康状態を年齢別に見ると、年齢が高くなるほど、「良くない・計」の割合が高くなる傾向にあり、55～59歳では10.6%であるのに対し、80歳以上では28.9%と高く、約18ポイントの差となっている。

白書では、主観的な健康状態別に見た会話頻度についても分析を加えている（図表2）。家族や友人との会話の頻度を主観的な健康状態別に見ると、健康状態が「良い」人では「ほ

図表1 利用者の年齢階級別インターネット利用率



資料：総務省「通信利用動向調査」  
（注）無回答を除く

とんど会話をしない」が1.1%と極めて低いのにに対し、健康状態が「良くない」人では13.1%に上る。

次に世帯別に見ると、夫婦のみ世帯、二世帯世帯、三世帯世帯ではいずれも9割以上の者が「ほとんど毎日」会話をすると回答したが、単身世帯で「ほとんど毎日」会話をすると回答した者は54.3%にとどまり、他の世帯グループと比較して著しく低い結果が見られた。単身世帯をさらに男女別でみると、女性単身世帯で「ほとんど会話をしない」とした者は2.2%にとどまったのに対し、男性単身世帯では11.7%に上る。

そのほか、白書では、収入のある仕事をする理由を主観的な健康状態別に見ているが、いずれも最多の回答は「取

入がほしい」で5～6割を占める。一方、「働くのは体によい、老化を防ぐ」とする回答は、いずれの健康状態グループにおいても10%台だった。

白書は、これらの結果から、「健康自認が「良くない」者が日常生活において不活発になり、不活発になることでますます健康自認が下がる、という悪循環が生じることのないよう、健康自認が「良くない」層の特性や実態を踏まえて対策を講じることが有益」としている。また、単身世帯が増加するなかで、単身世帯において、外出や会話の頻度が特に低くなっていることから、「就業や社会活動、多世代交流など多様な形で高齢期の社会生活を支援することが望ましい」とした。

（調査部）

図表2 家族や友人との会話（択一回答）

	ほとんど毎日	2～3日に1回	週に1回	月に1～2回	年に数回	ほとんど会話をしない	わからない	不明	会話をする(計)
<主観的な健康状態別>									
良い	90.1	5.2	2.1	1.5	—	1.1	—	—	98.9
まあ良い	87.4	8.3	1.4	2.2	0.2	0.6	—	—	99.4
普通	87.5	7.6	2.2	1.2	0.7	0.8	—	—	99.2
あまり良くない	79.3	10.3	3.0	3.7	0.7	3.0	—	—	97.0
良くない	67.2	11.5	6.6	1.6	—	13.1	—	—	86.9
<世帯別>									
単身世帯	54.3	26.1	8.0	5.8	0.4	5.4	—	—	94.6
夫婦のみ世帯	91.1	4.8	1.6	1.3	0.3	0.9	—	—	99.1
二世帯世帯(親と同居)	92.6	3.2	—	3.2	—	1.1	—	—	98.9
二世帯世帯(子と同居)	91.9	5.1	0.9	1.1	—	1.1	—	—	98.9
三世帯世帯(親・子と同居)	95.1	—	1.6	—	3.3	—	—	—	100.0
三世帯世帯(子・孫と同居)	91.5	4.5	1.7	1.1	0.6	0.6	—	—	99.4
その他の世帯	85.7	7.1	1.8	1.8	1.8	1.8	—	—	98.2
<単身世帯(男女別)>									
男性 単身世帯	45.7	22.3	12.8	6.4	1.1	11.7	—	—	88.3
女性 単身世帯	58.8	28.0	5.5	5.5	—	2.2	—	—	97.8

資料出所：内閣府「高齢者の健康に関する調査」（平成29年）。

（注）会話をする(計)は、「ほとんど毎日」「2～3日に1回」「週に1回」「月に1～2回」「年に数回」の合計。